

【様式①】令和4年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立藍川中学校

校長名 折戸 靖仁

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
学校・家庭・地域との協働による指導体制の確立	・地域の活動を紹介したり、地域の中で活躍する生徒の姿を認め、広げることにより、地域の活動に積極的に参加できる生徒を増やす。 ・学校運営協議会や支援推進委員会、PTAと連携し、地域や家庭の教育力を生かした活動を進める。	B	・地域の行事を生徒に紹介し、ボランティアに参加する生徒を募って準備を進めることができた。コロナにより活動途中で中止になってしまったこともあった。 ・支援推進委員会によるDIG訓練事業、検定事業、キャリア教育事業、寺子屋事業を地域の協力により実施され、生徒が自主的に参加し、成果を上げることができた。	・いろいろな場面で、地域の方々との連携が進んでいます。 ・ボランティア活動する生徒が増加の傾向にあります。 ・コロナで中止になる場面がありましたが、可能な範囲で活躍していました。 ・年々変化していく状況の中でも、今できる精一杯のことに取り組んでいます。	・学校の活動を地域や家庭に発信したり、地域やPTAの活動を生徒に紹介したりして、学校運営協議会や支援推進委員会、PTAと連携し、地域や家庭の教育力を生かした活動を進める。
学習指導要領の趣旨を十分に踏まえた社会に開かれた教育課程の編成と実施	・全教科の授業に協働学習を核とした指導過程を位置づける。 ・生徒の「聴き合い」から始まる「学び合い」を基盤にし、探究的な課題に取り組む学び(授業)を創り出す。	B	・研究会等を通して各教科で目指す姿の具体を共有し、課題づくりや適切な活動について学び合うことができた。 ・仲間と探究する必然性のある課題設定に取り組むことができた。深い学びに繋げるために、教科によって学習過程を工夫することをした。	・聞いて受け止める姿勢はよいと感じました自分の考えをもち、述べる側面がもう少し伸びるとより高みを目指せると思いました。 ・教科による差異を感じました。教科の特性によるものと思われます。 ・この3年間、授業の雰囲気や人間関係は大変良くなっているような気がします。教員と生徒が1対1で話すチャンスが増えていることも感じます。	・教科の本質を意識しながら、確かな学力を付けるための課題提示の仕方や評価の方法を充実させることで、探究し続ける学習集団の育成を進める。
幼保小連携や小中一貫の考えのもと、地域人材を活用した学校づくりの推進	・小中のいじめ対策監を中心に情報交換を行い、いじめ防止や中1へのスムーズな移行に役立てる。 ・土曜授業等で、地域、社会の人材を活用した教育活動を行う。	A	・普段の対話やいじめアンケートの実施など、いじめ対策監を中心に、いじめの早期発見、早期対応に取り組むことができた。 ・地域調べ、職場体験、芸術鑑賞会等の活動を行い、地域の方や専門性をもたれた方から本物に触れることで自己の生き方を考える機会となった。	・生徒と教師の人間関係にホッとすることがあり、生徒も相談しやすいと感じました。 ・職場体験の事前準備と生徒の取組は良かったと思います。生徒にとって有意義だったと思います。 ・通学時にしっかりと挨拶をしてもらえます。 ・いろいろな方々に協力いただき、進められていると思いました。 ・いじめ防止や中1へのスムーズな移行をするプログラムの成果は出ています。	・小学校中学校のそれぞれの取組を、児童・生徒がICT機器を活用するなどして交流し、活動を共有することで中1へのスムーズな移行に役立てる。 ・地域の力を生かし、地域の協力をいただきながら総合的な学習の時間等の活動を推進する。
教育環境と学校財務環境の整備	・ICTを活用した授業実践の交流を図り、有効な活用方法を校内で共有する。 ・タブレット端末や「スマート連絡帳」を有効活用し、家庭との連携を図る。	A	・課題を教師がタブレットを通して出し、生徒が自分の考えをまとめたり、自分を振り返ったりしたことをタブレットを通して提出することができた。 ・生徒にはタブレット端末を通して、保護者には「スマート連絡帳」を通して情報の発信をすることができた	・タブレット、電子黒板、黒板の使い分けを上手にされていると思いました。 ・ICTの倫理教育は成果を出しているようで、生徒の使い方に問題があまりなく、上手に使えているようです。 ・時代の変化なのか、保護者の方が発信情報を一番見やすい手段がよいです。	・学習支援ソフトの実践交流を図り、効果的な活用方法を共有し、各教科指導の実践に繋げる。 ・タブレット端末の活用のルールを明確にして、有効に活用されるようにする。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・生徒が主体的に危機回避行動をとることができる防災教育を進めるために様々な災害を想定した訓練を計画的に実施する。 ・地域の防災訓練により多くの生徒が参加し、災害や防災について理解を深め、命を守る行動ができる力を高める。	A	・火災、地震、不審者侵入時の訓練に加え、土砂崩れや浸水の災害も想定して避難の行動を考えることができた。 ・地域の防災訓練に生徒が参加し、消火や救助活動を学ぶことができた。	・自治会と連携して進められていることは大変よいと感じました。 ・今年は地域の活動が中止になったり、縮小して実施したりしたこともあり、十分に参加いただけませんでした。	・基本的な避難の仕方を押さえた上で、実際に起こり得る実践的な訓練を実施し、様々な事態に対しても冷静に判断して行動できるようにする。 ・地域防災訓練に多くの生徒が参加し、地域では中学生にどのような役割が求められるか理解を深め、地域の一員として行動できるようにする。

HPアドレス:

<https://gifu-city.schoolcms.net/aikawa-j>